

With 通信



今月号の内容

理事長ごあいさつ

事業計画

外部研修

・DWAT

・不登校から再出発するため

・ディズニー流ホスピタリティと

人材育成基本

法人内研修

・精神障害について

・新人研修

活動報告

人事

利用者の声

ごあいさつ

理事長 三好 恵里子



ホルムズ海峡閉鎖により、簡単に世界情勢が不安定になること、他国との関係の難しさ、1つの出来事がさまざまなことに影響を及ぼすこと、平和があっても日常生活が成り立っていること等を実感しています。物価は高騰し、生活費がかかり、収入が同じでは生活が苦しくなるばかりです。福祉業界の運営の殆どは、国・県・市等の交付金で成り立っています。事業所がいくら工夫しても急に収入が増えることはありません。そこで国では処遇改善緊急支援事業補助金の交付や処遇改善手当の変更を決定し、法人でも現在その対応に追われています。どの業界でも人材不足であり、言うにおよばず福祉業界も同様です。職員たちにも他業界に負けない待遇が図れ、福祉職を辞めることが無いように、若い人たちにも福祉業界に就いてもらえるように法人でも改善を図っていきたくと考えています。

3月に長生圏域では、母親が障害のある子供を殺害するという痛ましい事件が occurred。基幹相談支援センターを含め当法人事業所は関わりがありませんでしたが、長生圏域の関係者等と振り返る機会に参加させていただきました。特にサービスが不足していたわけでもなく、関係者も十分に支えていた中でこのような事件がおこってしまったことに、改めて人を支援することの難しさを感じました。法人が抱えているケースに関しても前進しないこと、解決策が見つからないこと、他機関にも迷惑をかけてしまうことがあります。無力さを感じることもしばしばです。しかし諦めることなく、一人でかかえこまず、できる限りのことをするしかないと感じています。職員たちや長生圏域、千葉県の間仲間達と協力しあいながら今年度も前を向いて歩みます。

事業計画

民堵 指定特定相談・指定一般相談支援



- ① ちょうせい広域障害者基幹相談支援センターと民堵の相談系2事業所の役割・分担・協同支援の方法等について検討と見直しを行い、支援内容の差別化を図ります。
 - ② 現在、登録者の増加に伴い新規利用者の受け入れを停止していますが、職員を増員し新規利用者の受け入れを再開できるようにします。
 - ③ ICT化を促進し業務効率を向上させ、働きやすい環境づくりを進めます。
- 上記3点により相談体制の充実を図り、地域の皆さまにとって身近で頼れる存在を目指します。
(森岡飛鳥)

ちょうせい広域障害者基幹相談支援センター

昨年10月に開始し、虐待ケースの対応、お金も住居もない方の対応等々個別ケースに追われました。12月頃から忙しさは増し、気がつけば2025年度が終わっており働き方改革などと言っている時間はありませんでした。地域にはまだまだ対応できていない方々がいることを感じた日々でした。先日、AIで基幹のことを知ったと相談してきた人がいたので「茂原市で障害のことを相談するところは何？」と聞いてみたらAIが1番に答えたのが「ちょうせい広域障害者基幹相談支援センター」で詳しく説明してくれました。2026年度も相談電話は鳴り続けそうです。職員たちの健康も保ちながら地域作りにも力を入れたいなあと考えています。地域生活支援拠点についても長生圏域の皆さんと形づくりをしていく1年としたいと考えています。(三好恵里子)

EMU

就労継続支援B型

管理者が変更となったため、昨年度までに安定させた利用率や人員配置、各職員の業務量などを引き続き維持、継続できることを目指す1年とします。

数値目標は平均通所者数20名、平均工賃20,000円、就職者1名。利用者一人ひとりのニーズをしっかりと捉えて具体的な個別支援計画を立てることで支援の質を向上させ、利用率の安定に繋がります。食材料費の高騰により弁当販売の利益が減少しているため、軽作業や農福連携など他部門の売り上げを伸ばすなど、EMU全体でカバーしていきます。

法人としても異動が多く、リスクの高い1年となるため、比較的安定しているEMUの職員をさらに育てることで法人全体の安定へ貢献します。(森岡俊)

じょい

生活介護・自立訓練（生活訓練）

4月より管理者およびサービス管理責任者が変更いたしました。新体制における最優先課題としてまずは「事業所の安定化」に全力で取り組んでまいります。

今年度の上半期は、職員増員と育成に注力し、より質の高い、安心できるサービス提供の基盤を築きます。下半期は、関係機関と連携を一層深め、新たな利用者の受け入れを積極的に進める計画です。職員一人ひとりが手を取り合い、皆様の心に寄り添いながら一日一日を大切に、誰もが自分らしく、心穏やかに過ごし笑顔で楽しく過ごせる場所であり続けるようにします。(榎本)



ARUKU

就労移行支援・就労継続支援B型

平均通所者数28名以上を目標とし、積極的な見学・体験の受け入れに努めます。また、様々なニーズに対応できるよう、関係機関と連携しながらサービス管理責任者を中心に細かい支援体制の構築を目指します。利用者数が増えても平均工賃15,000円以上を維持できるように、かつ支援の質も維持・向上できるように職員の増員も行います。

昨年度好調だった市役所やイベントでの販売活動は引き続き積極的に行い、地域との繋がりを増やしていきたいと思えます。

昨年度から始まった就労選択支援への関わり方や1年間登録者の居なかった就労移行支援の今後の運営など、これからのARUKUの方向性をしっかりと定める1年にします。(森岡俊)

ウィズ 共同生活援助

利用者が安心して生活できる場所であることを最優先に考え運営します。サービス管理責任者は視野を広く持ち効率よく業務を進め、世話人等は利用者とは日常的に関わる時間を多く持つことを意識し、本人の思いを受けとめ寄り添う支援で利用者の満足度を高めていけるようにします。

長生圏域で話し合いが進められている地域生活支援拠点の整備についても対応できるよう進めていきます。

2028年度住居追加を目標に、地域で不足している部分が担えるよう情報を収集し準備を始めます。そのためにも人材の獲得に力を入れ、一緒に働く仲間を増やして行きます。(本良)

研修報告

DWATフォローアップ研修

みなさん、DWATをご存じですか？「災害派遣福祉チーム」は、大規模災害時に避難所で生活する要配慮者を福祉の専門的な視点から支援するチームです。今回は過去の派遣事例をもとにしたケースや、多職種連携をスムーズにするためのコミュニケーション演習を中心に行いました。

特に重点を置いたのは、避難所での「スクリーニング」と「環境整備」の両立です。要配慮者を早期に見つけるだけでなく、避難者の困りごとを聞き取ったり、動線の確保などの支援も行いました。こうした取り組みが二次災害防止に直結することを改めて実感しました。

実際に派遣経験のある方からは、現場ではDWATを知らない被災者や他の災害派遣チームも多く、支援をスムーズに始められなかったり、被災者が警戒して話をしてくれない場合があると聞きました。災害派遣時は限られた資源の中で迅速な判断が求められます。今回の研修で学んだ「福祉の視点を持つ避難所運営」を法人内で共有し、まだDWATを知らない人にも知識を広げ、地域で動ける体制を強化する必要性を感じました。（榎本）



不登校から再出発するため

私が今回の研修「不登校から再出発するための『最初の一步』～ゲームに逃げていた僕が世界と繋がり直した話～」に参加したいと思ったのは、何をきっかけに引きこもってしまったのか、その背景にはどんなことが起こっていて、どのように脱却できたのかを知り、少しでも支援のヒントになればと思ったからです。

私はじょいで日中多くの精神障がいのある方たちと過ごしています。私たちには大したことはない、と以为ていても、些細な変化でも敏感に感じ取り、その場にいることすら辛くなってしまう方もいます。講師のタカ氏は、学習障がいによりミスを指摘されることで次第に引きこもるようになりましたが、オンラインゲームを続けることで友達を作り、自分の居場所を確保していました。人それぞれ、考え方や感じ方はみんな違う。できないことや自分と違うことを責めるのではなく、できたことを喜んで、ミスをしてでも大丈夫という環境作りがとても大切だと学びました。（八田）

ディズニー流ポスピタリティと人材育成基本

3月6日に行われた千葉県社会福祉法人経営者協議会青年部会主催の研修に参加しました。講師は東京ディズニーランド史上わずか4名のみが選出されたマスタートレーナーの1人として、17万人を超える多様な従業員の人材育成を統括した高橋真樹氏。人材育成の基本として、①見る（一人ひとりの個性や強みを見つける）、②認める（存在とプロセスに対する証人）、③任せる（信頼して委ね成長のきっかけをつくる）という3つの大切なことを学びました。また、ディズニーでは笑顔や挨拶の訓練は無く、婉曲話法（やわらかい表現への置き換えや、「恐れ入りますが」などクッションとなる言葉を入れるもの）の訓練しかしていないそう。婉曲話法の技術と5つの明確な行動基準（①安全、②礼儀正しさ③インクルージョン、④ショー、⑤効率）を優先順位通りに実践することを徹底していることが現場の質の高さに繋がっているのだろうと感じました。自分の職場で出来ることを一つずつ試してみようと思います。（森岡俊）

精神障害について

今回、精神障がいの種類や特徴についての研修に参加しました。特に関わりの多い統合失調症と双極性障がいの症状や経過、支援の基本について理解を深めることができました。同じ疾患でも症状の現れ方や感じ方には個人差があるため、目の前の言動だけで判断するのではなく、その背景や生活状況、日々の体調の変化などを踏まえて関わることの大切さを感じました。

また、短く具体的な声かけや一度に一つずつ伝えること、事実と気持ちを分けて対応すること、環境の変化を少なくする工夫などが、不安や混乱の軽減につながるということが印象に残りました。今後は日々の支援の中で気付いたことを職員同士で共有しながら、関わり方をそろえ、今回の学びを支援に活かしたいと思います。(松尾)



新人研修

新年度を迎え、第1回目となる「新人研修」を実施し、6名が参加しました。

研修では法人の理念をはじめ、接遇・コミュニケーション、就業規則、BCP、感染症対策、虐待防止・身体拘束適正化について、各講師より丁寧な説明が行われ理解を深める機会となりました。参加者からは「法人の立ち上げから理念を学び、ウィズの役割を再確認できた」「他事業所の取り組みを知ることができた」といった声が寄せられました。特に、利用者との関わり方への意識が共有されたことは、虐待防止への重要な一歩であると感じています。

また、昼食は講師・受講者・研修委員でEMUのお弁当を囲み、趣味などの話題で和やかに交流することができました。

今年度も年間を通して多様な研修を実施し、職員一人ひとりの資質向上を図るとともに、法人全体でより良い支援の提供に努めてまいります。(三好優斗)

参加者感想

今回の新人研修のような場は何度も経験していますが、なかなか慣れないもので緊張しました。特に接遇に関して、自分自身を見返すよい機会になりました。利用者の特性に合わせた対応、ご家族と接することも多いため、失礼のない言葉使いや対応をしていきたいです。今後も定期的に見直しをしていこうと思います。また、ウィズの一員として、知識や技術を高められるように励んでいきたいと思いました。他事業所の新人の方とも交流ができ良かったです。(岩瀬)

10月に入職し、慣れてきた頃の研修参加でした。接遇&コミュニケーション研修では、障害ごとに適した話し方がある事を学びました。精神障害の方には否定をせず受け止める事、発達障害の方にはゆっくりと理解しやすい言葉を使い、絵や写真などを活用する事の有効性を学びました。今回の研修を通じて、どの障害においても共通しているのは相手の立場に立ち、不安を取り除くような関りを意識する事だと実感しました。今回の研修を生かし、一人ひとりに合った伝え方や接し方を心掛け、安心して過ごしていただける支援に繋がっていきます。(石橋)

各事業所行事

2月、近隣にある幼稚園の園児・先生含めて30名程がARUKUにお買い物体験をしに来てくれました。先生から事前にアイシングクッキーのオーダーがあった為、小さい子は何が喜んでくれるかなど利用者さんが一生懸命考えてくれました。そして、プリンセスや動物、車など色とりどりのデザインを描いてくれました。当日、アイシングクッキーを見た園児・先生共に「かわいい！」と喜んでくれ、私たちも笑顔あふれる楽しい時間になりました。また、ARUKUの利用者さんもお金の受け渡しや見守りに参加し、良い経験ができました。(荒川)



ARUKU幼稚園買い物体験



ウィズいちご狩り

日々の作業のねぎらいと心身のリフレッシュを目的に、「さくら名所100選」の茂原公園へお花見に出かけました。当日はあいにくの雨で出店はお休み。「残念だね」と肩を落とす利用者さんもありましたが、普段は大混雑の公園がまるで貸し切り状態に！静けさの中、雨に濡れた桜の幻想的な景色をゆっくりと堪能できました。「来年はてるてる坊主を作ろうね」と笑顔で語り合う場面も。日頃の作業から少し離れ、心からの笑顔があふれる、穏やかで充実した時間となりました。(中村)

グループホームの利用者を対象に季節を感じて頂く事や外出の機会づくりを目的として3月にいちご狩り外出を実施しました。ハウス内は甘い香りに包まれ、多くの種類のいちごが並び、食べ比べをしながらそれぞれの味を楽しんでいました。

利用者からは「甘くて美味しい」といった声も聞かれ、皆笑顔で過している様子が印象的でした。旬の味覚を味わいながら季節を感じる事ができ、心身ともにリフレッシュできる貴重な機会となりました。今回の活動を通して、外出活動の大切さを改めて実感しました。(三國)



EMUお花見



じょいBBQ

4月22日じょいでのバーベキューでは利用者の皆さんと一緒に楽しいひとときを過ごすことができました。炭火で焼いたお肉・焼き鳥など香ばしい匂いに包まれながら笑顔で会話を交わす時間は心温まるものでした。普段はあまりお話しする機会が少ない方も食事を通して自然と距離が縮まり新しい一面を知ることができたのが印象的です。準備や片付けを通して協力しあう大切や食事の場が人と人をつなぐ力を感じることができました。今回の経験を今後の活動にも活かしていきたいと思えます。(丸)

人事



2026年度の施設長、管理者職員にインタビューを行いました！

- ①事業所の魅力、強みを教えてください。
- ②今年度の意気込みをお願いします。
- ③最後に自慢話を教えてください。

民堵 施設長 森岡飛鳥



- ①圏域最多の相談員5名体制になりました。各々が持っている知識や経験を共有し、幅広く対応しています。
- ②久しぶりの民堵なので、まずは関係機関の皆様顔を知ってもらい、関係性を築いていきたいと思えます。
- ③じょいの出勤最終日に、じょいの職員と利用者さんがサプライズで送別会を開いてくれました。

民堵 管理者 吉田陽子



- ①病院、児童、障害、介護など、様々な分野での経験を持つ相談員が揃っており、多角的な視点から助言が得られること。
- ②新しく入った相談員と共に、改めて相談業務の基本を学び直し、事業所全体でのスキルアップと支援の質の向上を目指します。
- ③最近、息子と行ったバッティングセンターでホームランを打ったこと。パーマが長持ちしやすい髪質であること。

ARUKU EMU施設長 森岡俊



- ①ARUKUは軽作業、喫茶、農福連携など多様な作業種目があること。各部門の職員が柔軟に連携している。EMUは弁当、軽作業、事務、農福連携と多様な部門があり、かつ各部門の契約先にも多様性があり、それを担える利用者職員が居ること。
- ②管理者として赴任したのでARUKUの強みを活かしつつ、課題を整理し、目標やビジョンを明確化したい！5年かけて築いたEMUをしっかりと引継ぎ、長期的に安定した事業所に成れる土台を作りたい！
- ③農福連携に参加して2年になり、トマトの下葉掻きもできるようになりました。
ELDENRING NIGHTREIGNというゲームでレートカンストしたこと。数ヶ月前に。

EMU管理者 田中寛子



- ①様々な層（年齢、職歴、性別など）の職員が各々助け合っていること、かつ、そのそれぞれの層が互いに連携していることだと思います。
- ②引き継がれたことをもれなく行い、利用者さん職員、みんなが生き生きといられる場所作りを目指します。
- ③うちの庭は、どんな強い植物でも枯れます。歴代の枯れた植物は、ハナミズキ、すずらん、レモン、紫陽花です。

じょい施設長 榎本智史



- ①職員が明るく元気です！なんといっても昼食が美味しいです。腕利きの調理員さんが毎日色々な料理を作ってくれます。
- ②明るい職員たちと共に盛り上げ、皆が毎日楽しく過ごせるようにします。
- ③休日に群馬や栃木で温泉に行っています。群馬や栃木はもう庭みたいなのです。

ウィズ施設長 本良瞳



- ①グループホームの魅力は「自由」。利用者の考えや生き方を尊重する。強みは、一緒に悩んだり、立ち向かってくれる職員がいることです。
- ②利用者や関係機関の方から、信頼される場所にしていきたい。地域に必要な資源を増やせるよう頑張ります。
- ③息子たちが、働いて得た給料で誕生日をお祝いしてくれたこと☆優しさのある子に成長してくれました。

利用者の声

私はEMUに通い始めたばかりで、まだまだ雰囲気になれることも出来ていないかもしれません。週に3日通っていますが、現在の目標は通所を続けることだと自分に言い聞かせています。作業としてはPCでの事務的なことを希望して通所を始めました。その日の仕事量により、軽作業を行うこともあります。思っていたより抵抗感はありません。私の目標は最終的に障がい者雇用での社会復帰です。今までは気持ちばかりが先走って失敗を繰り返していましたが、職員さんもサポートもあり、長期的な目標にはなるとは思いますが達成に向けて頑張ろうと思います。(EMU利用者 藤川)

私はグループホームに入居してから1年になります。同時にB型事業所のARUKUに働き始めましたが、肺疾患で3度の入退院を繰り返しました。ARUKUでの作業は、職員の方々と一緒に作業している人達が優しく指導してくれているので、病の試練にも負けず、毎日楽しく仕事をしています。感謝の言葉しかありません。

(ARUKU利用者 瀧上)

お二人とも
記事作成にご協力いただき
ありがとうございました！



会費案内

会員募集のお願い

この法人の目的、活動にご賛同いただき、ご支援・ご援助いただける個人及び団体の会員様を募集しております。支払い方法、詳細については、下記までご連絡お願いいたします。 年会費 一口1,000円

編集後記

新年度が始まり1ヶ月、少しずつ新しい環境にも慣れてきた頃かと思えます。今年度も法人の活動や想いを分かりやすく伝えることを目指し、広報誌を作成していきます。季節の変わり目、皆様体調にもお気をつけください。(小川)

Thank you!

最後までご覧いただきありがとうございました。

これからを担う若い人材を求めています！

下記HPより詳細をご確認ください。



社会福祉法人ウィズ本部
〒297-0016
千葉県茂原市木崎1300番地1
TEL：0475-47-2600